部長と愉快な仲間達

白蜜糖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
部長と愉快な仲間達

【Ｎコード】
Ｎ１８８９Ｃ

【作者名】
白蜜糖

【あらすじ】
変人な部長や可愛い先輩と接する中で繰り広げられるほのぼのとした日常のお話

部長と先輩

7月上旬。新1年生にとってはもう学校にも慣れ、手を抜き始める頃。また、初めての期末テストが終わり、来たる夏休みを思いふける頃。

そんな日常を例外なく送っている少年が一人。

「東山くん、ちょっといいかね」

そう呼ばれた俺は、

「いや部長、俺は東山じゃないっすよ！」

部長は気にすることなく続ける。

「さて、明日は暇かね」

今日は金曜日。だから明日は土曜で学校は休みである。「暇じゃないって言っても無理矢理拉致するんでしょー？まぁ暇ですけど」

部長の眼が光る。あーいい予感はしないなこりゃ。部長の眼が光ると何かに巻き込まれる。いやそもそも部長に話し掛けられる時点で、既に巻き込まれてるか。はぁ、と心の中で溜め息。

「では、明日の午後8時、阿古山（あこさん）の麓の売店の前に集合！」

阿古山とはこの町の外れにある山で、ハイキングで有名である。

「って、午後8時ですか！？」

「そうだが何か？観測だから当然だろう、東山くん」

あ、そっか。観測とは天体観測のことである。

部長と呼んでいるのは天体観測部の部長だからである。しかし、天体観測部というのは正式な部ではない。同好会ですらない。理由は単純。部員が二人しかいないからである。部員はもちろん、部長と俺だ。そんなちっぽけでは部としては成り立たない。

実はこれが初めての天体観測になるのである。。何故かは知らないが今までしてこなかった。

「部長、何か持ってくるものとかありますか？」

「ない」
即答だ。
「はぁ…」
「しいて言うならば、健全な肉体と健全な精神だな」
「…健全じゃなければならないほど過酷なんですか？」
「む、言いたかっただけだ」
えぇー言いたかっただけっすかー。

「あぁ、そうだ。今日は何か呼び出されたから、先に帰ってくれたまえ」
呼び出された、か。予想は付く。きっと部長は告白されるのだ。しかし結果は見えている。絶対に部長は断る。
前に理由を聞いた時、『この俺に彼女などいらーん！！そもそも興味ないわーっ！！』などと腰に手を当てながら言っていたが、おそらく嘘だ。確かに女性には興味なさそうな感じだが、何か挙動不審だったし、そもそも一人称で『俺』など聞いたことない。いつも部長は『私』だ。きっと他に何か理由があるのだろうが、まだ分からない。まぁ少なくとも言えることは、告白するだろう女の子どんまい、ということだけだ。
それにしてもモテるな部長。俺の知る限り、6回は告白されている。全部断っているのだが。部長は断るにも関わらず、全てちゃんと呼び出しに出向いて断っている。部長いわくそれが礼儀だそうだ。それにしても、羨ましい…

「羨ましいのかい～？唯くん」
声の主は新庄友紀（しんじょうゆき）先輩。一個上の高校2年生。もちろん女性である。
身長は自称１６０ｃｍだが、おそらく１５５ほどだろう。体重は、もちろん知らないが、見た目かなり軽そうだ。髪は肩に掛かるか掛からないかくらいのストレートで、見事なまでの黒、傷みもなく綺

麗である。先輩いわく『染めると傷むでしょー』とのこと。まぁこの学校自体染色を禁止しているのだが。成績は中の上らしく、またドッヂボールが恐ろしく強く、物凄く足が速いらしい。

この人もまた部長同様に物凄くモテる。もう１０回は告白されているだろう。全て断っているが。うちのクラスでは二人が告白して見事に玉砕したそうだ。こんなにモテる理由は一目瞭然、可愛いからだ。身長相応なのか、顔はかなり小さい。だけど目が大きくてくりりとしていて、鼻はすっと高く、それぞれのパーツはまさにベストポジションにある。うん、可愛い。

一つ問題があるとすれば、強すぎることだ。空手に、少林寺に、護身術の類もやっている。あと柔道も少々やってるとか言ってたっけ。２、３回蹴られたことがある。１回は気を失ったっけ。正直そこは怖い。

あ、もう一つ。これは問題と言うべきものではないかもしれないが、背が小さい割りに胸があるのだ。世間ででかいと呼ばれるほどではないが、それでもそれなりにある。そこに目線が集中してしまうことは無きにしもあらず。

「あー唯くん、おっぱい凝視してるーへんたーい」

と言いながら、（本人は軽い冗談のつもりだろう）正拳突き。

「ごふっ！？」

鳩尾にクリーンヒット。

崩れそうになったが先輩が抱えてくれた。

かろうじて気を失わなかったのがせめてもの救いか。だけど一瞬、三途の川と呼ばれてそうな川が見えたのは気のせいかなー？

先輩はというと、

「唯くーん？だ、大丈夫かい？」

とか言いながらあたふたしてる。あ、先輩が近い。あたふたしている先輩も可愛いなーとか思っていると、

「唯くーーん！？！？」

声を大にして叫び、盛大に俺を揺する。
先輩そんなに揺すったら―
ゴンッ！
「ぐほっ！？」
窓の桟にしたたか頭を打ち付けた。
先輩は何か言っているが、意識が遠退いて―

部長と先輩（後書き）

初めての連載です。辛口でもいいんで評価してくださるとありがたいです。

先輩との一時　～時に天使、時に悪魔～

バシッ！！
「い〝っでぇ～！！」
左頬の痛みを覚え、意識が覚醒する。

目の前に先輩がいた。正確には少し下だが。何故か先輩は左手で俺の胸倉を掴み、右手ははたく構えをしていた。そして真剣な目。いや、むしろ恐い。
「…先輩、恐いです」
先輩ははっと気付き、
「心配したんだからねぇ～！！」
と言いながら何故かビンタ。はうっ！物凄く痛い。
「せんはい、いたいへす（先輩、痛いです）」
「ご、ごめん！」
よく見たら先輩は少し涙目だった。涙目な先輩も可愛いっす！なんて呑気なことを考えていたら、先輩は胸倉から手を離し、ぺたんと教室の床に座りこんだ。

「先輩！？大丈夫ですか？！」
何か体調でも悪くなったかと心配になる。
先輩は少し上向き加減で、所謂上目遣いで、俺を見つめながら、かろうじて聞こえるくらいの声で呟いた。
「心配したんだからね…」
どうやら先輩は俺が意識を取り戻し、一応（頬はまだヒリヒリするけど）大丈夫だったことに安心して気が抜けただけのようだった。
にしても、か、可愛い！！これがこの先輩の誰もを魅力する可愛さか！？まるで天使！いや、本物の天使！なんという上目遣いなん

だ！！ニヤけてしまうではないか！
「何ニヤニヤしてんのよぉ～！」
怒鳴られた。実際にニヤニヤしてたんだな。恥ずかしい…
先輩はむぅという表情をしているが、元が可愛いのでその表情も可愛く見える。
「ったく、なんで気絶してんのよーもぅ」
今の『もぅ』が可愛かった！それは置いといて、気絶させたのは誰ですかー！？と口に出そうと思ったが、きっと暴力を振るわれるので即却下。暴力は反対です、うん。そういえば部長も暴力が好きじゃなかったっけ。部長と暴力反対同盟でも組もうかな？それで『（先輩の）暴力には決して屈しません！』みたいな感じで立ち向かうか。…すぐに屈しそうだけど。あの部長も意外と先輩には弱いみたいだし。

先輩はいつの間にか立っていて、制服のスカートをはたいている。
「それにしてもあのおにぃは突然よねー」
部長のことを、お兄ちゃんや兄さんなどではなく、何故か先輩はおにぃと呼んでいる。
さて、読者の中には気付いた者もいるであろう！そう、この友紀先輩とあの身長１８０ｃｍで成績優秀、運動神経抜群で、２年時には生徒会長を務め、更にはかっこよくてモテまくりな、部長は兄妹なのである！あの変人部長とこの可愛い先輩が兄妹とは！なんてこったい！
って俺は誰に向かって喋ってんだ？読者って誰だよ！

「んー？どうかしたー？」
先輩は首を傾げている。その感じも可愛い。
「いや何でもないっす。ほんと部長は突然ですねー。まぁ天体観測が出来るならそれでいいんですけどね」
俺は星が好きだ。小さい頃から空を眺めるのが好きだった。あの

その時々によって移り変わり見せる青空と雲の表情も好きだが、特に星の瞬きに魅せられる夜空が好きだ。小学校の上級生になる頃からは、その星自体にも魅せられるようになってきた。望遠鏡は買って貰えなかったが、星の図鑑を隅から隅まで見まくった。

中学ではそういう部活がなかったので入れなかったが、高校で正式な部ではないが天体観測部に入った。そしてそこで部長に出会ったのだ。

「ほんと唯くんは星が好きよねー。そんなに星が好きなら星と結婚すればー？」

先輩は物凄くニヤニヤしてる。

「いやいやいや、流石にそれはですね…」

そもそも星に性別はあるのか？もしあったら地球はどっちだろ？うーん…

「じゃあ、男が好きなのー？」

「ちょっと待ったー！！何故そうなりますかー？！」

決してそういう趣味はございませんよ。ほんとにないですよ？いや、そんな疑いの目で見ないで！って誰に向かって話してんだ！？

「えーでも彼女いないんでしょー？」

「ぐはっ！？先輩はそれは言わないでくださいよー」

少し涙目になってしまう。だって今まで彼女いたことないですもん…うぅ…。いや、だからって男好きじゃないですよ？

「この私がなってあげようかー？彼女に～」

一瞬ドキッとした。それを悟られないように少し話を逸らす。

「いやいやぁ～先輩には彼氏がいるんでしょ～？」

「ん？私には彼氏いないよん」

え？

「彼氏いないんですか…！？」
「うん、そだよー」
なんで驚いてるの？という表情できょとんとしている。
「だ、だって告白全部断ってるじゃないですか！」
「うん、でも彼氏いないよー？」
「じ、じゃあ何で断ってるんですか？」
「付き合う気がないから断ってるんだよー？」
当然でしょー？という表情をしている。
あれれー？先輩のことだから彼氏くらいいると思ってたんだけどなー？
先輩の頭の上に豆電球が光ったような気がした。
「それにー唯くんが好きだからそれ以外は断ってるのー」

なんですとー！？！？

ええっと、つまり、どういうことだ？？こ、これは告白ととっていいのかな？てか告白！？告白されて、えーっと、どうすればいいんだ？ってそもそも先輩は俺のことが好きなのかっ！びっくりだ！
ちらっと先輩の方を見てみると、ほんのり頬がピンクに染まっている。俺の方はきっと真っ赤だろう。顔が熱い。
ど、どうすりゃいいんだ！？な、何か言った方がいいのか！？
そんなあたふたしている俺を眺めながら、先輩が一言、
「唯くん、可愛い～。んー冗談よ～」
そう言いながら、人差し指で俺の頬をぷにぷにしてくる。

へ…？じ、冗談なんですか…先輩は天使なんかじゃない、きっと悪魔だ…！

ほろりと目から塩水が…

「あれっ？唯くん？どうしたの！？な、泣いてる！？」

あれれー？なんだか物凄く悲しいなぁー。

「ご、ごめん唯くん！」

先輩はあたふたしながら、すごく申し訳なさそうな顔をしていた。

俺はもう気力が無くなって、その後しばらく抜け殻になっていた。

先輩との一時　～時に天使、時に悪魔～（後書き）

2話目です。これからもよろしくお願いします。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1889c/

部長と愉快な仲間達

2010年10月17日15時16分発行